



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

死の報道に触れて、「ああ、そんな人が昔あったな…」と記憶が蘇ることがあります。この方の計報もまさにそうでした。30代以下の人はきっと知らないでしょう。

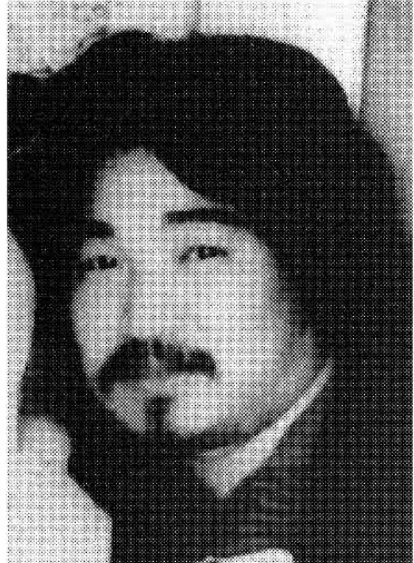
時は1980年代のバブル前夜。絶対に儲かるという株を雑誌上で披露し、10倍にして返すと顧客から保証金を募り、約7500人から580億円の詐欺を働いた(投資ジャーナル事件)

その首謀者として逮捕される(懲役6年)以前は、「兎町の風雲児」という異名をほしいままにし、メディアにも引っぱりだこだったのが、中江滋樹という人です。中江氏とみられる遺体が、2月20日に都内のアパート火災現場で発見されました。中江氏は、7、8年前からこの

145 中江滋樹氏

アパートに住んでおり、独居だったそうです。66歳でした。死因が「焼死」の人を当連載で書くのは、今回が初めてです。消防庁の発表によれば、昨年のわが国の総出火件数は3万7981件。1日に100件以上の火災が起きている計算です。火災の総死者数は、1427人。負傷者数は、6114人とのことでした。

このうち住宅火災による死者数(放火自殺者などを除く)は946人。内、65歳以上の高齢者が3分の2以上を占めています。



また、出火原因の1位は「たばこ」で3414件、2位が「たき火」で3095件、3位が「コンロ」で2852件。4位が「放火」で2784件となつていますが、5位の「放火の疑い」と合わせると、4761件で実質1位となつてしまします。

かつて、ある在宅患者さんに訪問診療をし2時間後に、おそらく寝たばこから火事を起こし、亡くなったケースがありました。消防署からの身元確認の連絡で知りましたが、ご遺体は性別も分からないほど焼けていたといひます。

それからというものの、独居の高齢患者さんには、「くれぐれも寝たばこには気を付けて」と言つて回つています。たばこの火が綿布団に落ちると、しばらくは無炎燃焼が続くため気付かずについて、炎が上がった時には一酸化炭素中毒になつており逃げられないのです。

中江氏が寝たばこだったかどうかは不明です。14年前には、自宅放火未遂の疑いで逮捕され、その後、精神科に入院していたという報道もあります。中江氏は、8年前の雑誌のインタビューでこんなことを語っていました。

「全盛期は30歳頃。当時は体をアルツと揺すれば10億円くらいは簡単に出てきました。銀座の飲み代は1晩数百万円。愛人は10人くらい…」

中江氏にとって、お金とは何だったのか? 度が過ぎた成り金主義で穏やかな最期を迎えた人を、私は見たことがあります。

お金とは何だったのか?